

教 会 会 報

川 畔 の 尖 塔

日本キリスト教団札幌教会



牧 師

米 倉 美佐男

札幌教会創立一二八年記念礼拝

「聖なる者たちの受け継ぐもの」
エフエソの信徒への手紙一章一五—三節

「祈りの度に、あなたがたのことを思い起
こし、絶えず感謝しています。」（16節）
今年は宗教改革五百年に当ります。昨
年から意識して伝えてきましたが、私たち
の教会もこれに因んだプログラムを計画し
たく思います。教会の先達から何を受け継
ぎ、次に続く人たちに何を残すかを考えて
いきます。私たちを導いてくださる主イエ
ス・キリストに感謝の礼拝を獻げましょう。
与えられた聖書の箇所は使徒パウロが
エフエソの信徒たちに宛てて書いたもので
す。彼は教会（キリストを中心とした罪赦

された者の集まり）が信仰によって一つと
なることを強く願つて祈っています。篤い
祈りが伝わってきます。「聖なる者たちの
受け継ぐもの」（18節）とあるように、教
会が繼承するものが何かを示しています。

「こういうわけで」（15節）、神の恵みは
キリストにおいて満ち溢れています。私
たちは贖われた者として神の栄光をたたえ
るのです。神を讃美し、礼拝する教会とな
るのです。教会は祈りの教会です。祈りは

神がすべてであると信じができる時に祈り
に祈れます。心から神を讃美する時に祈り
が生まれます。パウロの篤い祈りは「祈り
の度に、あなたがたのことを思い起
こし、絶えず感謝しています。」（16節）
今年は宗教改革五百年に当ります。昨
年から意識して伝えてきましたが、私たち
の教会もこれに因んだプログラムを計画し
たく思います。教会の先達から何を受け継
ぎ、次に続く人たちに何を残すかを考えて
いきます。私たちを導いてくださる主イエ
ス・キリストに感謝の礼拝を獻げましょう。
与えられた聖書の箇所は使徒パウロが
エフエソの信徒たちに宛てて書いたもので
す。彼は教会（キリストを中心とした罪赦

されたりの集まり）が信仰によって一つと
なることを強く願つて祈っています。篤い
祈りが伝わってきます。「聖なる者たちの
受け継ぐもの」（18節）とあるように、教
会が繼承するものが何かを示しています。

「こういうわけで」（15節）、神の恵みは
キリストにおいて満ち溢れています。私
たちは贖われた者として神の栄光をたたえ
るのです。神を讃美し、礼拝する教会とな
るのです。教会は祈りの教会です。祈りは

神を深く知り、心の目が開かれ、聖なる者
たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光
に輝いているかを悟ることができるようにな
ります。復活のキリストが教会の頭かしら
であり、教会はキリストの体として命を与
えられていることを覚えましょう。

教会は何を受け継ぎ伝えて行くのか。言
うまでもなく十字架と復活の主イエス・キ
リストです。我らの罪の贖いの為に十字架
に架かつて死なれ、三日目に復活されたお
方を伝えるのです。死に勝利され、罪に勝
利し、神の右に座し、真の救いを与えてく
ださった主イエスこそ我らの唯一の救い主
であると。代々の教会はそれを受け継ぎ伝
えてきたのです。「すべての支配、権威、
勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでな
く、来るべき世にも唱えられるあらゆる名
の上に置かれました。」（21節）。

キリストが満ち満ちた教会が私たちの教
会です。信仰の知恵と啓示によつて何を受
け継ぎ伝えて行くのか、伝えていかなければ
ばならないかを正しく知り、キリストの体
なる教会の一員として私たちは召されてい
るのです。

札幌教会

創立記念日に思うこと

牧師 米倉美佐男

一、牧師招聘について

札幌教会は、牧師を招聘することの意味を再学習すべきだ。せつかく大きな経験をしたのにそれが生かされていない。願わくは私が去る時には、にこやかに去らせてほしい。私も感謝をもって去りたい。

二、「教会とは何か」を考えよ

今年は宗教改革500年の年である。

覚えよう。宗教改革者たち、この教会の諸先輩が私たちに何を残そうとしたのかを考えよう。聖書のみ、キリストのみ、信仰のみ、恵みのみ、そして万人祭司の遺産を大切に受け継いで行こう。私は今の北海教区の姿勢に賛同することは難しい。教会の連帯はお金では解決しない。信仰的一致、教会的一致がなければ連帶は到底できない。教会の交わりは仲良しクラブではない。教会とは何かを考えよう。

三、これから教会について

あと2年で創立130周年を迎える。私たちには先人が残してくれた有形無形の遺

産がある。それを有効に生かすべき。宝書にある。教会の将来は厳しい。献金者の大半は年金生活者。見通しは明るくない。

以前総務委員会が提案した将来構想があつた。日の目を見なかつた。その構想を評価する。保育施設、教会施設（礼拝堂、集会室）、老健施設、賃貸老人住居等の複合施設の計画であつた。邪道だと言わず検討したら良い。以下を目的として考えてみたら如何？

1 キリストと教会に仕えること。

2 日本と北海道の伝道のために。

3 金儲けの手段にはしない。（利益は出

して他に有效地に還元する）。

先人が残してくれた土地は大きな宝だ。将来何もせざ切り売りして失うより、知恵を出し合つて活かすことを考えてみたらどうだろう。ただこの計画は札幌教会だけでは無理。近隣の教会との連携が必要。同じ教会観を共有できる方々と運営組織を作れる。付加価値も生まれる。多くの人たちに働く場を提供できる。伝道の一環になる。

クリスチヤン村を造ろう。そんなことを考えている今日この頃である。

札幌教会

山鼻講義所

遊佐 マサ



私の生家樋口家は、屯田兵として福島県会津若松市から、明治九年（一八七六年）五月に石狩国札幌郡山鼻村五十九番地（現住所の札幌市中央区南二十三条西八丁目二）に入植し、そこで開拓にあたりました。入植したのは私の曾祖父母家族で、次男八三郎（十五歳）、長女ルイ（後に琴似屯田兵の佐藤只雄と結婚）、次女タケ（二歳）の総勢五名で、屯田兵は八三郎でした。私が生まれた大正十二年（一九二三年）には祖母タケが家長としてがんばつておりました。私が聖書と出会ったのは山鼻講義所でした。山鼻講義所は明治四十四年（一九一一年）六月四日に現在の札幌市中央区南十四条西八丁目に開所されました。大正十四年（一九二五年）十月三十日には、会堂が新築され、献堂式がとり行われました。日曜学校や夕拝伝道会に用いられていきました。私は小学生の頃から、祖母タケや母トメに送られて、弟の亨と一緒に毎週日曜学校に通い、聖書を読み、お話を聞

いて讃美歌を歌つていました。昭和十四年（一九三九年）のクリスマスに洗礼を受けました。タケは家庭集会も頻繁にお受けして、畠でできた枝豆やとうきびでトメと共に喜んで来て下さったことがとても嬉しかったことを記憶しています。山鼻講義所は、昭和十六年（一九四一年）に閉鎖されました。この年は日本基督教団（以下教団）が成立して、札幌教会も「教団 札幌教会」と改称されました。また、教団北海道教区が創立された年でもあります。

昭和二十五年（一九五〇年）五月五日には、亨の先輩でクリスチヤンの遊佐孝五と札幌教会で結婚式をあげました。昭和四十三年（一九六八年）三月四日にはタケが九十四歳で召天しました。告別式は札幌教会でさせていただきました。

電車の停留所に昔なごりの「東屯田通」があります。最近、本来の東屯田通（南六条、二十三条西八丁目）がテレビで取りあげられ、札幌のルーツである場所に住み続ける幸せを神様に感謝し、先祖たちにも報告しながら、感謝の気もちで暮らしていくたいと思います。



古きを思う

南 力

昔の札幌教会の様子を書くようにとの求めを編集部の方から頂きましたので、教会に来はじめた1950年ころから数年間のことと思い出すままに書いてみます。

1950年ころは戦後の爆発的なキリスト教ブームがピークを過ぎ、下降気味になっている時期だと言われています。それでも礼拝堂は毎週満席の状態で、当然若者の割合が多く、活気に満ちていました。当時すでに教職は2人体制が定着し、夕礼拝も守られていました。他に米国からの宣教師も時々講壇に立つことがあり、多彩になりました。また礼拝には米駐留軍の兵士やその家族の人も出席していました。

この当時、夏には青年修養会が開かれていました。毎年野幌の機農高校（現酪農学園大）で8月初旬ころに開いていました。勤め先の仕事から解放され、野幌の原生林をバックに広々としたグリーンの校庭を存分に使わせてもらい、教会の構内での語り合いは異なり、羽を伸ばして熱く語り合つた



1953.8月札幌教会青年会修養会
参加人数 17人（男7・女10）
テーマ キリストの体なる教会

開催場所
野幌機農高校開催期間
8月11日

ものでした。
例えば1953年
年の青年修養会は
次のようなもので
した。

1952年のイースターに17人の兄姉が同時に受洗し、その仲間に加えていただきました。主の日の礼拝において進むべき道を示され、力を与えられてこれから後も歩みたいと願っています。

特別伝道集会



講演 7月9日
読谷教会

具志堅 篤 牧師

「この島（沖縄）でキリスト者として生きる」

1. この島（沖縄）の歴史

首里城を拠点とする「琉球王国」が成立したのが1429年。中国（明）に従属しつつも言語は「日本語」、王国の公用文は「漢文」を用いてきた。その時代は、「大交易時代」と呼ばれ、東アジア～東南アジアにかけてビジネスを大胆に展開させ正に大琉球の姿がそこにあった。これに目をつけた江戸幕府は、1609年薩摩による琉球侵攻を許す。江戸は琉球王国を存続させ、首里城王府体制を維持させる。それ故に琉球王国は中国と日本という大国に翻弄されてきたとの認識が定説とされてきた。しかし、事実は中国（清）と日本（幕藩）との狭間にあつてバランス感覚を發揮し、王国としての独自性を確保してきたのである。「御取合（ウトウイエー）」と称され外交イベン

トとしての「冊封使」「江戸上り」にはソートパワー戦略（琉球の音楽・芸能）が採用されてきた。文化レベルの高さをアピールすることで、大国に翻弄されることなく独自性（プライドとアイデンティティ）を維持してきた。ペリー艦隊が来航する頃（1853年）、王国の経営は極めて厳しい状況にあつた。果たして、約500年続いた琉球王国は滅び、1879年『琉球処分』沖縄県となる。人々は、アイデンティティの危機を抱えた。島人は政治派閥の対立激化、心の拠り所を求め似非宗教へと向かうなど彼らの心身（魂）は疲弊していた。



教団沖縄教区 読谷教会

2. この島（沖縄）に福音の種が蒔かれる。
ベツテルハイム（1846—1854琉球伝道）に続けと少し遅れてパブテスト派、メソジスト派の宣教師による伝道がなされた。人々は「善き生」を求めていた。特に若者たち、教師らの求道心は強かつた。それに応えるために『琉球語讃美歌・琉球語箴言』は必須の伝道アイテムとして効果的に用いられてきた。それは、魂の救いと共にモラル・ヴィジョンを申し示したと言つても過言ではない。某宣教師は「これは読谷山の我々の教会で、ここで250名ほどの人々、すべて農民ですが、その人たちが異教の最も暗い道から抜け出し、福音を信じる悦びを得ています。彼らは良心が今現世の生、および来るべき生の約束と共に』何事にも有益であることを発見しました。」と証しした。
3. 悲惨な戦争体験 あまりにも悲惨な戦争体験のゆえにこの島の教会（教団）は「戦後ゼロから」の歴史認識を探用し、1609年の「薩摩侵攻」以降の琉球は大国に翻弄され続けてきたとの認識に立つたままである。実際、現在は翻弄されている。

4. 伝道の幻（ヴィジョン）

キリストの十字架と復活の福音は、歴史に翻弄されつつも倒れない「しなやかな強さ」を提供する。台湾長老教会のモットーに学びたい。「福音不变」「時代在変」「伝道應變」、待つたなしの「伝道應變」！琉球は大交易時代「舟楫」を以って万国の津梁と為す」（舟を用い、アジアの架け橋の役割を担う）を掲げた。今、我々は「主が舟（教会）を用いて世界の架け橋となる役割を担う」そのことを切に祈つてやまない。在主

具志堅篤牧師をお招きして

宣教委員会



今年は、宗教改革500年ということで、年度当初から計画が練られ、講師に読谷教会の具志堅篤牧師をお招きすることが出来、感謝いたします。

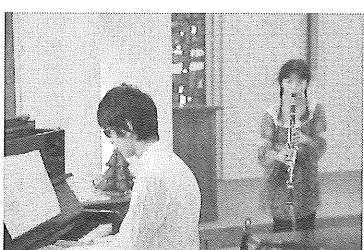
午前は「教会の土台」と題しての礼拝説教があり、午後には講演会で、めったない沖縄からの生のメッセージを聞く機会が与えられました。

この島・沖縄」と言う特殊な環境の下

で生きる人々の逞しさを思い、改めて「知る」ことの素晴らしさを感じました。小さな島国である琉球が、中国から、日本から、そして戦争を経た後も、翻弄されてきた歴史の現実。にも拘わらず、琉球讃美歌を歌つて伝道に励み、魂の安らぎを得てきましたと話されました。

一出席者から—

- ・合同のとらえなおしの問題をもう少し知りたい
- ・沖縄の現状に触れることが出来た
- ・武器を使わずに身を護る「空手」の素晴らしさを知った。
- ・戦争から学び、より平和を願う
- ・琉球讃美歌が聞きたかった
- ・歴史を知ることの大切さを実感した……
- などの声がありました。



「みどりの風にのせて」

婦人会・大人会合同例会 6／18

岡村 信子としこ

六月十八日、杉浦忍兄、聖子姉、長男の暖さんご一家のコンサートをお聴きしました。ご家族が一つになり、それぞれの立場で成し遂げられました。聖子姉のクラリネットの音色、暖さんのピアノの力強い演奏は、聴く者に感動を与えて下さいました。忍兄の病に対しても受け止め方につきましても、考えさせられることができなくなりました。ご

自分が病んでいる時も、他人のことをも考える心に感じ入りました。

神は、どこにあっても、弱い我らに力を与えて下さいます。ご一家の上に、神さまのお恵みが豊かにありますように。

当日は礼拝95名、講演会55名の出席でした。事前のアピールが足りなかつた点が反省として残りました。

あめでとう!!
「これから」



受洗（4月16日）

串間 栄子

四月に受洗させていただく事ができ、このようなご挨拶ができる幸せを神様に感謝いたします。私の生家は特に信仰はありませんでしたが、小学校から高校までミッショングスクールに通わせて頂きました。

「あなた方は世の光、地の塩となりなさい」が校訓でした。今思えば、大変素晴らしい環境でした。経済的にも大変だったでしょに、通わせて下さった今は亡き両親に、感謝の心どころか反抗ばかりであつた我が身が悔やまれます。

その後、獣医師となり、三十余年小動物診療に従事し、四人の子供に恵まれ仕事と育児に追われました。「忙しい」とは「心を亡くす」と書きます。我が身、我が家族の事だけを考える傲慢な日々でした。五十歳半ばを過ぎて、子供達が一人ずつ無事独立してゆき、ふと自分の足元を見る

と、大変みすぼらしく貧しく見えました。そして故郷に帰るよう、教会に通わせていただく事ができるようになりました。これから自分の自分を与えた事にとても感謝しております。

守屋學兄・典子姉紹介

受洗（6月4日）



守屋 學

信仰告白（6月4日）



守屋 典子

ご夫妻は当教会の会員であつた故守屋信康兄、智恵子夫妻の長男であり、末弟が当教会の会員博兄である。

今年になり、學・典子ご夫妻がご両親の信康兄と智恵子姉の教会墓地への改葬を申し出られ、墓地管理委員会で扱い、米倉牧師が詳細についての相談指導をした。その際、ご夫妻も教会墓地に入されることを希望された。お話を伺うと學兄は幼少のころ釧路教会で当時の伊藤牧師から幼児洗礼を

受けているとの事だったので、強制ではなくがこの際信仰告白を考えてみられたことをお勧めした。夫人の典子姉にもご主人が信仰告白をされる時に一緒に洗礼を受けられるといいですねと話し、ご夫妻は後日信告白と洗礼を決心、希望されたので役員会で試問した後、承認し、ペンテコステに信仰告白式と洗礼式を執行した。學兄については確認したところ釧路教会に書類が見当たらず、本人の記憶と兄弟関係者の証言によつて籍を新たに起こした。

學兄は大きな病を有し、病院と家を入れ院で行つたり来たりの状態であるが可能な限り礼拝出席を心掛けておられる。



7月21日（金）ご両親の平岸の教会墓地への改葬も無事済ませ、その時ご夫妻の長女中村奈美さん、學兄の弟、守屋博兄も参列された。ご一家の上に主の豊かな祝福がありますように。（文責 米倉美佐男）

ペントのペント讃美歌合戦で

讃美歌への思い



片桐 博

私の教会生活は40年余りになります。今日は私の歌つてきた讃美歌の変遷について考えてみたいと思います。

最初に歌つたのは、1954年の讃美歌集です。567曲収められています。また、1967年の讃美歌第2編もあります。曲数は259曲です。そして、現在使われている讃美歌21が出版されたのが、1997年、20年前の事になります。この讃美歌21に収められているのが580曲になります。

戦後約50年間に3回も改定出版されました。これからも、時代とともに変わっていくだろうと思います。

江戸時代、鎖国の時代から歌い継がれてきた我が国の讃美歌は、数百年の年月を超えて生き続けています。これからは、多国籍、多言語社会が到来しようとしています。言葉や表現が変わつても、讃美歌の美

しさが人の心をとらえる事には変わりありません。讃美歌の本質を次の世代に伝えていくのが、教会の役目だと思います。



「ペンテコステに想う」

齊藤 竹子

私は1955年ペンテコステ礼拝で、釧路教会の伊藤淳一牧師より洗礼を受けました。職場のクリスチヤンから最初教会バザーに、そして礼拝へと誘われたのが動機でした。讃美歌を歌うことが大好きで何となく出席していたという、まことに単純なことでした。

「神は私たちの救い主であること」が少し分かるだけで聖書全体を理解している訳ではなく、自信のないまま受洗したい希望を牧師に話しました時、先生は次の聖書の箇所を示して下さいました。

①汝の信仰汝を救えり（ルカ18の42）②神、汝と共にいませばなり（サムエル1の7）③神を待ち望むものは新たなる力を得（イザヤ40の31）④汝の歌を神に向かいて歌え。（詩篇96の1）（注・文語訳聖書）

いつも耳に残るものは、コリント第1の13章13節「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛とこの三つである。」（口語訳聖書）これが、父の教えでした。その主の言葉と共に生きた父の信仰生活を、神に感謝しつつ、これからも私たち家族は、その教えを全うしていきたいと思います。



追悼
大橋 良尚 兄

2017年3月16日
召天

「受洗は人生のスタートです」と励まされたことを忘れず感謝して過ごせることを幸いに思っています。私の喜びは兄弟姉妹、家族の受洗です。洗礼式で感謝の讃美を獻げる時、涙が溢れ出て止まらないことがあります。

その日の葬儀に携わつて頂いた多くの方々に、改めて御礼を申し上げたいと思います。感謝

教会 Do!

家庭集会の意義 (3)

宣教委員会

札幌教会創立のルーツは、これまで述べてきたように札幌農学校一期生の佐藤昌介らがW・S・クラークの人格教育の薰陶を受け「イエスを信ずる者の聖約」（一八七七年三月五日）に署名したことにある。「聖約」への署名は、新渡戸稻造、内村鑑三ら二期生にも及んだ。

すでにクラークは同年四月十六日、札幌農学校を辞して米国帰国の途についた。クラークは途中、函館に立ち寄りメソジスト監督教会宣教師M・C・ハリス（函館で駐在米国領事を兼任）に佐藤昌介ら農学校生の今後を託した。同年九月二日、ハリスは佐藤昌介ら一期生十五名に洗礼を受け、さ

らに翌七八年六月二日、内村、新渡戸ら二期生七名に洗礼を授けていた。同年十二月一日、一期生、二期生は揃つてメソジスト監督教会に入会した。ハリスは同年十一月二十五日、札幌に巡回区を設定し伝道の強化を図る。札幌教会週報表紙の下段に「伝

道開始 一八七八年十一月二十五日」と記されているところだ。

一八八〇年七月、佐藤昌介ら札幌農学校一期生が卒業。佐藤ら一期生は、自分たちでメソジスト教会を持ちたいとの願いを強くした。なお、佐藤昌介は一八八二～八六年にかけて米国ジョンズ・ホプキンス大学に留学する。他方、内村鑑三は宗派にとらわれない独立教会を構想する。さらに、メソジスト監督教会からの新会堂建設援助金の問題も絡み、メソジスト教会の設立には時間を要することとなる。

札幌メソジスト教会の創立には、初期信徒の仁平豊次の働きに負うところが大きい。

仁平は名古屋で代言人（弁護士）免許を取得し開業していたが、一八八二年三月受洗（メソジスト教会）を機に北海道に渡り、同年十月札幌に代言人事務所を開いた。

同年九月七日（翌九〇年五月、仁平らが中心になつて札幌市内の信徒十二名の兄姉を集め親睦会を開催した。これが信徒の家庭を会場に組会として整えられる。組会は、以上経過した遺骨を合葬墓に埋葬しました。

お知らせ

六月十一日（日）教会墓地の三十年以上経過した遺骨を合葬墓に埋葬しました。

墓地管理委員会

お幸せに！



堀田 茂 力
米倉美佐男牧師の司式で
結婚されました。

編集 後記

今号もたくさんの方に執筆していただき感謝いたします。

今号は、石川律子、梅田和泰子、小谷和雄、小谷由子、鈴木重安、鈴木泰子、鈴木紀子、中川洋子、堀田茂、森眞琴で編集奉仕をいたしました。

伝道の場となる。その後、方面会として発展し家庭集会に継承されたのである。